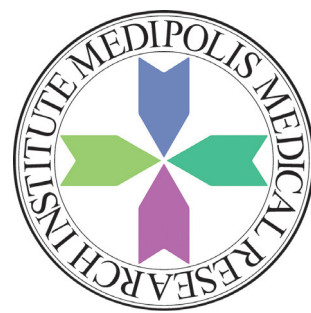


対談
企画

手術や抗がん剤による治療が難しいがんに対しても効果が期待される陽子線治療。4月から膀胱がん、肝細胞がん、肝内胆管がん、術後再発の大腸がんについて公的保険適用が拡大されました。患者負担が減り治療の選択肢が増えることになります。メディポリス国際陽子線治療センター（指宿市）の永田良一理事長と鹿児島市立病院の坪内博仁病院長が対談し、がん患者の動向や陽子線治療の展開について語り合いました。



陽子線治療の保険適用 拡大で患者の負担減へ

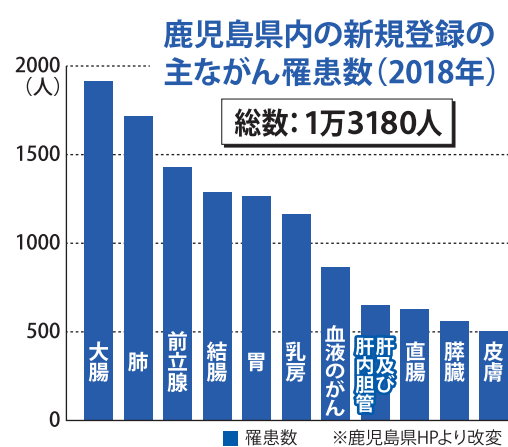
新規鹿児島がん登録年1・3万人

永田氏 陽子線治療は、腫瘍の深さ大きさに応じて腫瘍に集中的に高線量を照射できるため、周りの健康組織への影響を最小限に抑えることができます。たとえば心臓が悪くて手術できない人、腎機能が悪くて抗がん剤が使えない人、全身麻酔の困難な高齢者でも問題なく治療が可能で、患者さんにとって治療の選択肢が増え朗報です。まず、鹿児島のがん患者の動向はいかがでしょうか。

坪内氏 がん患者は増加しており、2018年の全国の新規がん登録患者数は約98万人で、鹿児島県では1万3180人です。多いがんは、男性では前立腺、胃や大腸、肺がんなど、女性では乳房、大腸、肺がんなどです。鹿児島県のがん死亡率は全国平均よりも高く、死亡者数は5000人を超え、全死亡者の約4分の1を占めています。

永田氏 鹿児島市立病院のがん診療の特長はありますか。

坪内氏 総合病院として専門医が多く、ほぼ全てのがんの診療ができること、がんの診断から、手術、薬物、放射線など患者さんの病状に応じた治療ができることです。外来がん化学療法室は県下最大規模で、また、前立腺がんなどの治療用手術支援ロボット（ダヴィンチ）も2台あり、内視鏡や腹腔鏡装置や放射線治療計画用CTなど最新の機器が整備されています。鹿児島県唯一の地域がん診療連携拠点病院（高度型）の指定も受けています。



生存率上昇 選択肢広がる

鹿児島市立病院長

坪内博仁氏

メディポリス国際陽子線治療センター理事長

永田良一氏

早期発見「治る」チャンス

(つぼうち・ひろひと) 1948年、高知県生まれ。鹿児島大学医学部卒。宮崎医科大学教授、鹿児島大学教授、同大学院医学歯学総合研究科長などを経て、2013年8月から現職。専門は肝臓病学、消化器病学。助手時代に発見し、ライフワークである肝細胞増殖因子(HGF)の薬剤化に向けた研究にも積極的に取り組む。

(ながた・りょういち) 1958年、鹿児島市生まれ。聖マリアンナ医科大学卒。医師、医学博士。91年に新日本科学社長。2014年から会長兼社長。06年からメディポリス医学研究財団(現メディポリス医学研究所)理事長。プータン王国名誉総領事も務める。

永田氏 鹿児島でのがん手術の動向はいかがでしょうか。

坪内氏 胃や大腸がんは早期診断が進み、内科的な内視鏡手術で治るものが増えてきましたね。大腸がんや肺がんなどの外科手術でも、腹腔鏡や胸腔鏡下の手術が増えています。患者さんの負担が少なく、回復が早いのが特徴です。ただし、しっかり経験を積んだ医師が実施することが必要です。

適用拡大「手術困難」に光

永田氏 今回、保険適用が追加された4つのがんは、いずれも手術が難しいとされるものですが、従来のX線治療より生存率が高く、治療成績が優れていると評価されて保険適用が認められました。

坪内氏 それは朗報ですね。いずれも治療が難しいがんですが、膀胱がんは、前立腺がんのPSAのようなバイオマーカーがなく、早期発見が難しいので、5年生存率が低い難治がんです。外科に紹介される膀胱がんのうち、実際に手術できるのは約2割です。

永田氏 膀胱がんは、この11年間に当センターでは314例の陽子線治療を実施しました。手術で腫瘍を切除できない場合でも陽子線と抗がん剤を併用することで生存期間を平均2年以上延ばすことができました。最近、まだ8例と症例数は少ないものの陽子線治療を実施してから外科的に切除した場合、5年生存率が75%と非常に高い成績を得ています。しかしこのように陽子線で行った膀胱がんを治療できるケースがあるということが医療従事者の間ではあまり知られていません。

坪内氏 肝がんの多くは、肝硬変を背景に発生します。小さいがんだと手術やラジオ波で焼灼する治療をします。今回、4センチ以上の大きな肝がんが陽子線治療の保険適用になりました。肝がんの治療では、肝硬変で肝臓の働きが悪いこと



実績蓄積 標準化へ期待

永田氏 陽子線治療は厚生労働省が認定する先進医療の一つです。保険適用されない300万円ほどの治療費が全額自己負担になりますが、保険適用になると、患者さんの収入にもよりますが自己負担は数万円ほどに軽減されます。

坪内氏 今回の診療報酬改定で、これまで先進医療として行なわれてきた陽子線治療が、手術ができない膀胱がん、肝がん、胆管がん、大腸がんについて、保険診療として認可されました。さらに、多くの症例が積み重ねられて、陽子線治療の効果が適応がいっそう明確になることを期待しています。

が多く、治療によって肝臓の働きを落とさないことが大事です。肝がんでは、がんの大きさや数、場所、肝臓の働き、治療効果と肝臓の働きへの影響を考えて、治療法を選択します。

永田氏 陽子線は、がん病巣に局限して治療を行えるので、肝がんが再発した場合でも繰り返して治療できます。これまでに再発を6回繰り返された肝がんの患者さんを陽子線で治療したことがあります。肝内胆管がんは、肝臓の中枢部に腫瘍ができるため手術はとても難しいですが、陽子線では抗がん剤との併用で治療可能です。

永田氏 公的保険適用が認められるにはさまざまなハードルがあります。今回、我々は学会と協力しながら陽子線治療の膨大なデータを分析して厚労省に説明し、保険適用を拡大してもらいました。アメリカでは、肺がんの陽子線治療は数多く実施されており、我々も十分な科学的データを提出できたと考えていたのですが、厚労省からはデータ分析の手法を指摘されました。今後、肺がんを含めて手術が難しい種々のがんに対して保険適用を拡大し、助かるはずの命が助かるよう国にはたらかせていきます。

大自然と豊かな温泉地、指宿でのリゾート滞在型がん陽子線治療

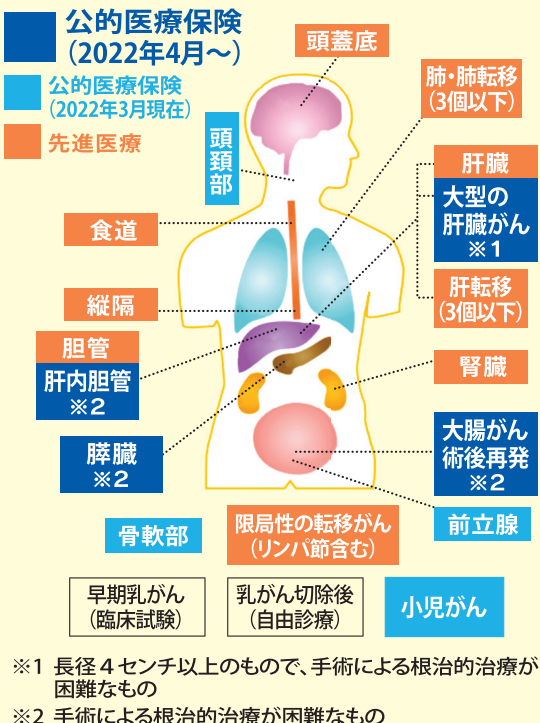
メディポリス国際陽子線治療センター
センター長 荻野 尚

メディポリス国際陽子線治療センターは世界で唯一のリゾート滞在型陽子線治療施設です。指宿の温泉や豊かな自然環境で体と心に優しい治療を提供します。2011年の治療開始以来、5000件以上の治療実績があり、2013年には患者の安全性や医療の質を厳しく評価する国際病院評価機構の認証を陽子線治療施設として世界で初めて取得しました。

がん治療には、さまざまな選択肢があります。指宿まで来られなくても、ウェブ会議システムを利用して遠隔でご相談を承っております。



メディポリス国際陽子線治療センターで治療できるがん



陽子線治療を検討されたい方は、メディポリス国際陽子線治療センターにご相談ください。

0120-804-881